

ごあいさつ

山のトイレを考える会代表：岩村和彦

2012年を迎え、皆様いかがお過ごしでしょうか。皆様には従前より当会への格段なるご支援、ご協力をいただき、厚く御礼を申し上げます。

さて昨年は未曾有の大震災に見舞われ、被災地のみならず、日本国全体が大きく揺れております。今後数年の国政の舵取りに国全体の浮沈が決まると言っても過言ではありません。そういう国難の中にあっても、当会として粛々と北海道のトイレ問題に取り組んでいかなければなりません。克服すべきトイレ問題は依然として山積されています。

一時期魔法のトイレに思えたバイオトイレも導入した山岳地では多くの課題を突き付けています。

今、そしてこれからも私達一人ひとりの思考と行動が問われています。

ここにお届けするニュースレターの一行一行にそんな思いを感じていただければ幸いです。

◆活動報告

1. 第12回フォーラムの開催 (2011. 3. 5)

土壌処理方式について学ぶ

第12回山のトイレフォーラムが北海道大学学術交流会館で開催され、53名の参加者を迎えて行われました。

テーマは「本州の山トイレ事情・土壌処理に学ぶ」です。

北海道ではまだ導入されていない「土壌処理方式」のトイレが神奈川県、岩手県など、全国でかなり導入されています。

土壌処理方式のメリット・デメリットは

(メリット) ①電気がいらぬ ②負荷変動に比較的強い
③維持管理が比較的楽

(デメリット) ①広い土地面積が必要 ②初期投資が高い

今後、北海道に環境配慮型トイレを導入する時の選択肢の一つになるのではないかと、2名の講師を招き学びました。

【講演1】

○吉田直哉氏 (神奈川県自然環境保全切羽・自然公園課主査)

〔演題〕土壌処理方式の山岳トイレの維持管理 (丹沢山塊)

・神奈川県ではH13～H17にかけて丹沢山塊に有人の山小屋等5か所と無人の避難小屋3か所、計8か所に土壌処理方式を導入。

・有人小屋では主に管理人が、避難小屋ではボランティア (神奈川県自然公園指導員180人など2団体) が維持管理している。

・県にも自然公園指導員1名を配置して、ボランティアとのコミュニケーションを積極的に図り (顔の見える関係)、ボランティアからの改善要望への措置対応も迅速にし、信頼関係ができて好循環が生まれた。

・有人トイレの協力金は一人50円。利用者の25%ほど協力。協力金により、トイレトーパー、清掃用具、消化消臭酵素、尿石除去クリーナー等を購入している。

・メンテナンスフリーに近いと言っても日常のトイレ清掃は必須。専門業者による年1回の点検も実施している。

【講演2】

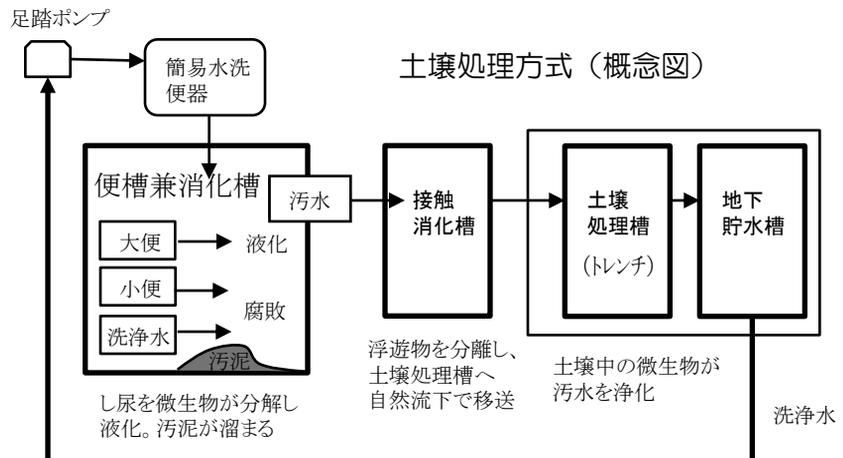
○岡城孝雄氏 (日本環境整備教育センター 企画情報グループリーダー)

〔演題〕山岳トイレの土壌処理技術について

- ・下図は足踏みポンプを使った簡易水洗の方式で、主に有人小屋に、簡易水洗無しものは避難小屋に導入。
- ・北海道などの寒冷地はパイプ等の凍結対策が重要。積雪していれば凍結の心配は無いが、吹き曝す地形は雪が融けた後に寒波が来ると凍結するので施工上注意が必要。
- ・降雪による雪の重みにより、トレンチの水平、傾斜が大幅に変化し、配管破損やズレを生じるケースも多々ある。
- ・負荷変動に強いが、設計値を大幅に超えた利用は、トレンチの目詰まりが生じ、汚水処理能力が低下する。
- ・各装置が適正な処理をして能力が発揮できているか、目視や検査できる点検口や検水管の設置が重要である。
- ・土壌処理について神がかり的な能力があることを言う人がいるが、その能力を過信せずに、維持管理がきちんとできる慎重な検討をしていただきたい。

【まとめ】

どのような方式でも、精度の高い利用者数、地形、気温、積雪量等の自然条件の十分な把握、維持管理主体の明確化と継続性の担保、施工方法の慎重な検討、そして運用後に浄化した汚水の水質検査等、毎年処理能力のチェック体制が重要とのことでした。



2. 2011山のトイレデー実施 (2011.9.18)



美瑛富士避難小屋でのトイレデー

2011山のトイレデーを9月18日に実施しました。今回で11回目です。昨年と同様に生憎の荒天で、日程を変更して実施したグループも多くいました。

北海道の約20箇所の登山口でマナー袋と山のトイレマナーガイドの配布、ティッシュやゴミを拾う清掃登山を一齐に行いました。参加者は約40名、マナー袋、マナーガイドは約1800枚を配布することができました。

美瑛富士避難小屋でのトイレデーは小雨の中、小屋周辺のティッシュを81箇所で回収、相変わらず生々しい排泄物もあり、解決に向け継続して活動することを誓いました。

3. 黒岳バイオトイレのオガズ掻きだし作業に参加(3回)

黒岳のバイオトイレは2003年9月19日に運用開始されました。オガズを利用したバイオトイレです。

電源はソーラー発電、風力発電のほか発電機も使え、蓄電池を備えたハイブリット自家発電です。

予測最大利用者は1日200回で4室あります。2004年の本格的運用開始早々から利用者が予測値を大幅に超える日が続き、オガズのバイオ処理が追い付かず、年5回ほどのオガズ交換を余儀なくされ、上川総合振興局はじめ関係者の大変なご苦労が続いています。

10月5日、作業を請け負っている会社の人と札幌を



柄杓で便槽中のオガズを掻き出す

朝早く出発。黒岳は冬山で7合目登山口から雪でトレース無し。深い所は膝上でラッセル交替しながら登る。

10時過ぎに上川総合振興局の職員二人も到着し作業開始。オガズは予想した通り水分過多でベチャベチャで幌尻のウンコにオガズが混じったという感じ。バッテリーは放電して使用不能で便槽ヒーターは使っていないとのこと。作業時間は4時間半。約900kgを掻き出しました。

このオガズはトイレの裏に積んである今まで掻き出したオガズと一緒に1週間後へりで搬出するとのこと。

これからの事を考えると気が滅入りそう。改良には高額な費用がかかるし、確実な解決策も見出せていない。迷路に入ったよう。担当は上川総合振興局ですが、それでも何とかいい方法は無いのかなと 思って帰ってきました。

今年初めて、オガズ交換作業に私が1回、愛甲事務局長が2回参加。自然環境が厳しい山岳トイレでの維持管理の難しさを改めて思い知らされた体験でした。(仲俣記)



今回掻き出したオガズが全部で約900kg

★携帯電話で北海道の
登山口山のトイレ情報が見れます！

<http://yamatoilet.jp/i/yamatoilet.htm>

